

【神奈川県リハビリテーション病院の基本情報】

医療機関名：神奈川県リハビリテーション病院

開設主体：神奈川県

所在地：厚木市七沢 5 1 6

許可病床数：320床（うち40床は医療型障害児入所施設及び療養介護（七沢療育園）
（病床の種別）一般病床

（病床機能別）急性期 50床、回復期230床、慢性期40床 ※平成28年度報告

稼働病床数：320床（うち40床は医療型障害児入所施設及び療養介護（七沢療育園）
（病床の種別）一般病床

（病床機能別）急性期 50床、回復期230床、慢性期40床 ※平成28年度報告

診療科目：内科、精神科、神経内科、小児科、小児神経内科、外科、整形外科、脳神経外科、
産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、
放射線科、麻酔科、歯科口腔外科

職員数：

平成29年4月1日現在

職種	人数
医師	39
看護師	211
理学療法士	57
作業療法士	36
その他医療職員（※1）	54
指導員（※2）	30
その他職員（※3）	54
計	481

※1：薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士、針灸療法士、義肢装具士、視能訓練士

※2：職業指導員、体育指導員、ソーシャルワーカー、心理判定員

※3：事務職員、工学技術員、診療情報管理士、研究員、看護助手、保育士

1 現状と課題

(1) 県央構想区域の現状

ア 人口

- ・ 人口は84.7万人で、年少人口（0歳～14歳）の構成比率は、県全体及び全国の数値を上回る。
- ・ 生産年齢人口（15歳～64歳）の構成比率は、県全体及び全国の数値を上回る。
- ・ 老年人口（65歳以上）の構成比率は、県全体及び全国の数値を下回る。
- ・ 平成22年から平成25年にかけての老年人口の増加率は、県全体及び全国の数値を上回る。

イ 医療施設の状況

- ・ 病院は、人口10万人対の施設数で県全体の数値と同程度だが、全国の数値を下回る。
- ・ 一般診療所は、人口10万人対の施設数で県全体及び全国の数値を下回る。
- ・ 有床診療所は、人口10万人対の施設数で県全体の数値を上回るが、全国の数値を下回る。
- ・ 歯科診療所数は、人口10万人対の施設数で県全体及び全国の数値を下回り、薬局も、県全体及び全国の数値を下回る。
- ・ 救急告示病院数は18施設である。

ウ 病床数の状況

- ・ 一般病床、療養病床の人口10万人対の病床数は、県全体及び全国の数値を下回る。
- ・ 精神病床、有床診療所の人口10万人対の病床数は、県全体の数値を上回るが、全国の数値を下回る。

(2) 医療提供状況（基本診療体制・疾患別）

ア 一般入院基本料(7:1、10:1)

- ・ 79.1%の患者が入院医療を構想区域内で完結している。
- ・ 全体的にレセプト出現比は低い。

イ 回復期リハビリテーション入院基本料

- ・ 80.7%の患者が入院医療を構想区域内で完結している。湘南西部に6.4%、相模原に4.7%流出している。
- ・ 全体的にレセプト出現比は低い。

ウ 脳血管障害

- ・ くも膜下出血で59.1%、脳梗塞、一過性脳虚血発作で68.9%、脳出血63.2%となっており、相模原、湘南西部への流出が多いが、流出入は拮抗している。
- ・ 脳卒中ケアユニット入院管理料、脳卒中患者の連携パス利用者のレセプト出現比は高いが、経皮的脳管形成術等、廃用症候群に対するリハビリテーション、脳血管内手術等のレセプト出現比は低い。

(3) 県央構想区域の課題

ア 将来において不足する病床機能の確保及び連携体制の構築

- ・ 県央構想区域は、県域の中でも高齢化のスピードが早く、平成37年には、75歳以上の患者を中心に、患者数は平成25年(10,539人)と比較すると1.47倍に増加。人口あたりの病床数は県域で下から2番目に少なく、また、人口に対する診療所数は、県域では最も少なく、医療資源が不足している。
- ・ 区域の病床数は、高度急性期病床、回復期病床、慢性期病床が不足すると推計されて

いる。特に、回復期病床が大きく不足することとなっており、回復期リハビリテーション病床や地域包括ケア病床など、回復期機能を担う病床を確保していくことが必要。

- ・ 地域において病床機能の分化・連携を進めるには、医療機関が担う役割を明らかにし、地域住民や関係機関で共有することが必要である。また、地域住民が適切な医療機関を選択し、関係機関によって受療につなげてもらえるよう、分かりやすい情報提供が必要である。

イ 地域包括ケアシステムの構築に向けた在宅医療の充実

- ・ 今後の高齢化が更に進むことにより、療養病床など病院で看取られていた高齢者の一部は、病院から地域へと移行することが見込まれる。県央構想区域における在宅医療の患者数は、平成25年(6,826人)と比較すると、平成37年には1.54倍に増加すると推計されており、認知症を含む精神疾患を持つ高齢者が増加すると想定される。
- ・ 現在の医療提供体制では、在宅医療等を必要とする高齢者数の増加に対応するには十分ではないが、今後の在宅医療サービス、介護保険サービスの具体的な必要量を現時点で明確にすることは困難であり、今後、需要量を想定した上で、必要な医療提供体制を検討していくことが必要である。

ウ 将来の医療提供体制を支える医療従事者の確保・養成

- ・ 県央構想区域における将来の医療需要は、特に回復期機能を担う病床が不足する見込みであり、現状でも、病院に従事している理学療法士・作業療法士の人口10万人対の従事者数は県全体の数値をやや上回っているが、全国の数値と比べると下回っている。
- ・ 現在でも、リハビリに携わるスタッフの不足により、安定した運営が難しいという病院もあることから、医療従事者の確保・養成に向けた取組みを行うとともに、定着促進を図る必要がある。

(4) 自施設の状況（平成28年度）

理念

- ・ すべての人々の人権を尊重します。
- ・ 障害がある人々やそのご家族から信頼される医療を提供します。
- ・ 障害がある人々のための高度で先進的なリハビリテーション医療を追及します。

基本方針

- ・ 患者さん本位の医療を実践します。
- ・ インフォームド・コンセントを徹底し安全で開かれた医療を提供します。
- ・ 重度・重複障害がある人々を支援します。
- ・ 医療と福祉の連携により一層の社会貢献を追及します。
- ・ 絶えず自己研鑽し、効率的な病院経営を目指します。

届出入院基本料

- ・ 一般病棟入院基本料 15 : 1
- ・ 障害者施設入院基本料 10 : 1

特定入院料

- ・ 回復期リハビリテーション病棟
- ・ 小児入院医療管理料

平均在院日数 70.3日

稼働率 80.9%

手術件数 443件（内整形外科 378件（85.4%））

自施設の特徴

昭和48年の開設以来、脊髄損傷、脳外傷、骨・関節疾患、神経難病等の治療と訓練を行っている。平成28年度末に七沢リハビリテーション病院脳血管センターと統合し新たに脳血管障害も対象とし、早期社会復帰に向けたリハビリテーション医療を行っている。

- ・急性期機能として、脊椎・脊髄損傷、褥瘡や変形性関節症、関節リウマチなどの重度の関節症に対する手術とリハビリテーションの実施
- ・回復期機能として、神経難病、高次脳機能障害、脳血管障害等に関するリハビリテーションの実施
- ・慢性期機能として、重度重複障害児・者の方を対象に障害特性に合わせた生活支援、医療的ケアを提供し医療と福祉の総合的支援を行っている。（七沢療育園（医療型障害児入所施設・療養介護施設））

（５）自施設の課題

県央地域は、人口は年々減少するが、65歳以上の高齢者は年々増え続け、2015年比で2025年は1.12倍、特に75歳以上1.63倍、患者数は1.25倍に増加し、65歳以上、75歳以上の患者は増え続け、65歳未満の患者は年々減少する。

当院では、整形外科の変形性股関節の手術を多く行っており、高齢化により患者及び手術件数等の増が見込まれることから、急性期機能が現状数では足りない可能性があるため、急性期機能病棟、回復期機能病棟の在り方を検討する必要がある。

2 今後の方針

（１）地域において今後担うべき役割

県立のリハビリテーション病院として、地域の一般病院等で受入れられない頸椎・脊椎損傷者のリハビリテーション、手術も必要な褥瘡や変形性股関節症等の患者への対応を引続き維持していく。

- ・脳卒中を対象とする回復期リハビリテーション病棟は、民間病院の回復期リハビリテーション病棟の増加に伴い、現時点のニーズに合わせて縮小した。（平成28年度100床→平成29年度60床程度）対象患者は、県央地域の患者にプラスして、若年性の脳血管疾患で就労支援が必要な患者など民間の回復期病棟との機能の棲み分けを行っていく。
- ・その他、地域で治療することが難しい障害者医療も引き続き提供していく。

（２）今後持つべき病床機能

高齢化が進む中で、手術の必要がある患者も増加傾向が見込まれるため、現在の急性期病棟は一定程度維持していく必要がある。また、リハビリテーションの必要性が増すことが想定されることから、回復期機能を提供する病棟も併せて検討する必要がある。

（３）その他見直すべき点

今後、交通事故、労働災害が減少することが想定されることから、脊髄損傷、神経難病を中心に入院を受け入れている障害者病棟の病床規模を検討する必要がある。

平成29年12月の新病院棟移転に伴い病棟数が、50床4病棟から40床5病棟に変更になり、急性期機能病棟、回復期機能病棟の在り方を検討する必要がある。

3 具体的な計画

(1) 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	50床		80床
回復期	230床		200床
慢性期	40床 (医療型障害児入所施設・療養介護施設)		40床 (医療型障害児入所施設・療養介護施設)
(合計)	320床		320床

<具体的な方針及び整備計画>

病棟機能の変更理由

・リハセンターの再整備計画に伴い、平成29年4月に、脳卒中回復期リハビリテーションを担っていた七沢リハビリテーション病院脳血管センター（100床）と神奈川リハビリテーション病院（320床）の機能統合（統合後320床）と病棟編成の改編を行い、その後、12月に新病院棟を開棟し、本館機能が50床4病棟から40床5病棟になり、全体で8病棟となった。当院では、術前等の急性期病床に分類される病床が、常時60程度ある。このため、2025年度に向けては、病院統合による脳血管疾患の患者への対応と、1病棟あたり病床数が40床となったこと、また、高齢化が進み自施設での手術対象の患者の増が見込まれるため急性期機能病棟、回復期機能病棟の在り方を検討する必要がある。

(2) 診療科の見直しについて

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持	内科、精神科、神経内科、小児科、小児神経科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科	→	内科、精神科、神経内科、小児科、小児神経科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科
新設		→	無し
廃止	無し	→	
変更・統合	無し	→	無し

(3) その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率 90%
- ・ 家庭復帰率 80%
- ・ 紹介件数 1000件/年
- ・ 逆紹介件数 1000件/年

経営に関する項目

- ・ 人件費率 90.0%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合 1.00%